

## 長野県総合計画審議会議事録

1 日 時：平成19年（2007年）8月2日（木）午前10時から12時まで

2 場 所：長野県庁3階 特別会議室

3 出席者

委員：小宮山淳会長、有吉美知子委員、伊藤かおる委員、太田哲郎委員、近藤光委員、  
滝澤修一委員、花岡勝明委員、平尾勇委員、松岡英子委、松下重雄委員、若林甫汎  
委員

専門委員：池田こみち専門委員、遠藤守信専門委員、北原曜専門委員、樋口一清専門委  
員、松永哲也専門委員

長野県：企画局長 和田恭良、企画課長 岩崎弘、政策評価課長 原山隆一、土地対策室  
長 市川武二、企画課企画幹兼課長補佐 佐藤則之ほか

4 議事録

（進行：企画課 佐藤企画幹）

若干、遅れている委員さんがおられますが、ただいまから長野県総合計画審議会を開会いたします。私、議事に入るまでの間進行を務めます、企画課の佐藤です。どうぞよろしくお願ひいたします。

最初に出席状況についてご報告いたします。古田委員、細川委員、松下委員が若干遅れてございます。藤原委員、鷲澤委員は所用のため欠席する旨のご連絡がございました。そのほかの委員10名の皆様にご出席をいただいておりますので、本審議会条例第6条の規定により、会が成立していることをご報告申し上げます。

なお、専門委員の皆様には、横道専門委員が所用のため欠席されておりますが、その他の5名の委員の皆様にはご出席いただいております。

次に、一部委員の任期満了に伴い、委員に異動がございましたので、ご報告申し上げます。7月1日付けで、新たに委員を委嘱した皆様は、花岡勝明委員さん、松岡英子委員さん、池田こみち専門委員さんでございます。なお、滝澤修一委員、藤原忠彦委員、松下重雄委員には、引き続き委員をお願いいたしました。

次に、資料の確認をお願いいたします。お手元の配布資料一覧をご覧ください。本日の資料は、資料1から資料9まででございます。このうち、資料1から資料5につきましては、事前に送付申し上げてございます。本日追加でお配りいたしましたのは、資料6から9でございまして、各種懇談会や県の団体、地域、県議会などからいただいたご意見・ご提言をとりまとめたものでございます。その他、参考的な資料を若干お配りしてございます。

なお、このほかに、長野県総合計画審議会条例及び委員・専門委員名簿をお配りしてございます。不足等ございましたら、係の者が伺いますのでお知らせ願ひます。よろしゅうございますでしょうか。

それでは、これより議事に入りたいと思います。当審議会の議長は、会長が務めることとなっておりますので、小宮山会長さん、よろしくお願ひいたします。

（小宮山会長）

おはようございます。本日もよろしくお願ひいたします。

委員の皆様には、本当にご多忙の中をご出席くださいまして、誠にありがとうございます。本日は、中期総合計画（仮称）の答申素案についてご審議をいただきたいと思いますが、前回の審議会後、6月25日から7月9日まで、この計画の大綱案についてのパブリックコメントを実施いたしました。この大綱案のとりまとめに際しましては、委員の皆様には短期間にいろいろなご無理を申し上げましたにもかかわらず、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

本日は、このパブリックコメントや、それから過日実施いたしました県の団体との懇談会等で頂戴したご意見を踏まえまして、私の下で答申の素案を作成いたしましたので、この素案について本日はご審議をいただきたいと思います。どうかよろしくお願ひいたします。

それでは、この会議事項に入ります前に、土地利用・事業認定部会の委員についてお願ひをしたいと思います。この部会に属する委員の方は、本審議会条例第7条第2項の規定によりまして会長が指名することになっておりますので、私から委員を指名させていただきます。

それでは、滝澤修一委員、花岡勝明委員、藤原忠彦委員、松下重雄委員、そして鷲澤正一委員を指名させていただきますと思います。ただいま指名をさせていただきました委員の皆様には、ご多用とは存じますがよろしくお願ひいたします。

それでは、会議事項に入りたいと思います。

本日の議題は、長野県中期総合計画（仮称）の策定について、答申素案でございます。この答申素案は、先ほども申し上げましたけれども、これまでご検討いただきました中で、いろいろなご意見をいただいております。その中で「もっとメリハリをつけたいか。」あるいは、「もう少し挑戦的な表現になってもいいのではないか。」というような、いろいろなご意見がございました。

そういったご意見を参考にいたしまして、前回ご審議いただきました大綱の「めざす姿」の表現をかなり修正しております。また、従来は「重点テーマ」ということでご提案をしておりましたが、これを「挑戦プロジェクト」というような、もう少しメリハリをつけたものに修正したようなところがございます。

さらに今回の答申素案では、「人口、経済の見通し」、それから「主要施策と展開方法」、「達成目標の設定について」、そして「各地域別の特性と発展方向」を追加してございます。

それでは、資料に基づきまして事務局から説明をお願いします。

（岩崎企画課長）

（資料1から資料9に基づき説明）

（小宮山会長）

ありがとうございました。

それでは、ただいま説明がございました点を中心に、本日はご議論をいただきたいと思いますが、その議論を通して本日は素案の内容をまとめてまいりたいと思います。

この進め方ですが、実はまだ審議会では基本目標が決まっていません。いつも会の最後に

持って行って時間がなくなったりしてご迷惑をおかけしていたので、今日は、最初にこの基本目標を決めていただきたいと思います。委員の皆様方には、先日アンケートをお願いして、皆様のご意見をお伺いしています。このアンケートの結果等について、事務局から説明いただけますか。

(岩崎企画課長)

それでは、委員の皆様にご協力をいただいて実施いたしましたアンケートの結果と、それに基づき基本目標についてどのように考えるかという点について、申し上げたいと思います。

まずアンケート結果ですけれども、まず長野県、信州の扱いでございます。基本目標の中で長野県、信州、どちらを使っていこうかというお話でしたけれども、アンケートの結果は信州というお答えが12ございました。長野というお答えが5、その他、どちらでもよい等のお答えがございまして、そういう意味では信州のほうが多かったということでございます。

それから基本フレーズの内容につきましては、これは非常にご意見が分かれまして、一番多かったのが「創生～人、暮らし、自然が輝く みんなの信州」というのが一番多く、それから1票差で、「今こそ挑戦のとき～活力と安心、水と緑ゆたかな信州」。さらに、1票差で「水と緑ゆたかな あんしん いきいき みんなの信州」でありますとか、「次世代への贈り物～水と緑ゆたかな あんしん いきいき みんなの信州」ということで、非常にご意見が分かれまして、私どものほうでこれらの一番キーになる言葉を少しまとめさせていただきまして、「“活力と安心” 人、暮らし、自然が輝く信州」という案を作成させていただきまして、「活力と安心」というところで、力強さといいますか、そういったことも表現できるかなと思いますし、「人、暮らし、自然が輝く」というところで、ここに暮らす人、それから外に向かっても、対外的にも長野県というのは、人も暮らしも自然もすばらしく輝くんだということが表現できるかなということで、まとめさせていただいたものでございます。以上でございます。

(小宮山会長)

ありがとうございます。

それぞれのセンスというか考えをお持ちで、なかなか一致しないので、このあたりでどうだろうということで基本目標をまとめさせていただきましたがいかがでしょうか。「活力」という少し動的なのがありますし勢いもある。それから「安心」、「人」、「暮らし」とか「自然」が入ったものを提示しましたがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。これでなければだめだというような強いご意見がなければ、これに決めさせていただいてよろしいでしょうか。

はい。それでは、皆様のご賛同を得られたということで、この審議会としては「“活力と安心” 人、暮らし、自然が輝く信州」を基本目標に決定させていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、基本目標以外の部分について、全体を通してご意見あるいはご質問等ございましたらお願いいたします。

(北原専門委員)

口火を切らせていただきますが、挑戦プロジェクトのテーマは、これでいいかなと思っているんですけども、なにか物足りないというのがひとつあります。というのは、格差社会の是正というのをひとつどうかなと思うんです。今、都市と中山間部との格差がかなり広がり、どんどん中山間部から人がいなくなっている問題だとか、日本人と外国人との格差、教育も含めた格差、それから、障害者と健常者との格差。こういう格差社会が今、広がりつつあると思います。これはかなり分野横断的な話ですので、ひとつこの挑戦プロジェクトの中に入れてはどうかという提案です。

(小宮山会長)

事務局、格差についてはどうなっていましたか。

(岩崎課長)

格差につきましては、格差という言葉の使い方が非常に難しく、今、ご指摘になられた点は、中山間地域を含めた長野県の地域間で、人口減少時代にどうそういったことに対応していくかというお話だと思います。そういう視点からは、プロジェクトの中でも「市町村が主役の輝く地域づくり」というプロジェクトを入れてございますので、そういったところが一つ考えられると思います。それから、あと施策全体としては、「めざす姿」の中にも、特に中山間地域、農山村の問題を取り上げておりますし、そういったところに入れてはどうかと事務局では考えております。従いまして、ご指摘のことは、そういったところの補強をさせていただくような形でいかがでしょうか。

(北原専門委員)

主要施策の中に、いろいろ織り込まれていて、これはこれですばらしい施策の体系だとは思いますが、私が今お話したのは、地域格差です。都市と中山間以外にも、先ほど言いました外国人の話だとか、それから障害者の話だとか、そういうのがいろいろあると思います。県民がみんな一緒に進んでいこうというときに、その格差というものをどう解消していくかというのは重要なプロジェクト的施策ではないかなと思うんです。そういうことで、中山間のことだけでなくてお話したわけです。

(小宮山会長)

これに関して、ほかの委員の方でご意見がございましたら。

はい、どうぞ、伊藤委員。

(伊藤委員)

今の話は、とても重要だと思ってお伺いしていました。

私が気になっているのは、産業を振興して所得を増やしていこうというときに、正規雇用の所得は増えていくけれども、先に送付いただいた県の産業活性化推進本部が作成した資料を見ても、長野県の雇用形態の中で女性の非正規雇用の比率が急増しています。

所得が伸びていくという中で非正規雇用が増えて、正社員の給与は上がったけれども非正規雇用の比率も増えて、全体的にいうとバランスが崩れたままであるというような状態になってしまうということが非常に怖いので、具体的目標の中で格差の部分というのが、例えば正社員雇用を増やしていくとか、それから外国人の労働者の問題や障害者雇用の環境、それから外国人の方々の教育環境の問題というようなのを、数値として入れていくという形の補完はいかがかなと考えるんですが。

(小宮山会長)

ただいまの北原委員のご提案ですが、今、伊藤委員がおっしゃったような形で、具体的な施策の中にこの精神を生かしていくというようなことでよろしいですか。

(平尾委員)

その格差の問題との関連で、先ほど課長さんから経済見通しのところをさらっとご説明いただきました。日本全体の成長率が高い場合で2.1、そのとき長野県は1.5。低い場合が1.0で、長野県は0.8と、このままいくと全国の水準を下回るような状況で推移すると、さらっとご説明いただいたんですが、その中で一人当たりの県民所得も、全国との差が拡大しますというお話でした。

私は、長野県内の格差の問題ももちろん重要なんですけども、いつまでいっても全国との差がどんどん開くような長野県の計画でいいのかという話は、非常に重要なところではないかという感じがします。ですからここで、挑戦プロジェクトということを入れていただいたのは非常にいいことだと思うんです。というのは、全国との格差が開かないように長野県全体を押し上げていくというのが、この総合計画のひとつの役割だと思いますので、長野県のエリアの中の格差の問題というのは、たぶん政策的な対応で細かくやっていくことなのですが、私はむしろ全国との格差についてももう少し議論すべきではないかと思って聞いておりました。

もうひとつ、成長率もそうですが、人口も全国をはるかに上回る勢いで減少していくわけです。人がどんどんいなくなり、しかも経済の活力も低下するという、その中で一人当たりの県民所得は、例えば今10位だったら、20位になり、今のままいくと、それが25位、30位になる可能性も十分ある。長野県の置かれている状況は、そういう状況なんだという、全国との格差の問題もやはりきちっと押さえておかなければいけないと思います。

先ほど私は発言しませんでしたけれども、挑戦という言葉、あるいは新しくつくるといような言葉、こういうものがこのキャッチフレーズの中にほしかったと思ってお聞きしていたんですが、大多数が信州ということだったので、大多数に従うということで特に申し上げませんでした。

格差の問題を語るのであれば、全国との格差こそ語って、その中で長野県のそのプロジェクトに挑戦する活力をどう取り戻していくかというような観点というのが、私は真っ先に議論すべきテーマではないかなと思いますが、そのへんはどうでしょうか。

(小宮山会長)

この「一人当たり県民所得全国レベルへの挑戦」という背景には、正に格差があるわけ

ですね。こういうようなのを取り上げていくと審議会の意見で、いかようにもできると思うんですが、この挑戦というの、あまりたくさん並べるよりも、ある程度絞っておいたほうが、我々の意思をくんでいるのではないかとということで、こうしたのですが。

もう一つ項目を立てるとか、あるいはこういう中でそういう精神を盛り込んでいくのか、あるいは具体的などころでそれを反映させていくのか、そのあたりについてほかにご意見はいかがでしょうか。

(平尾委員)

挑戦プロジェクトの数ということでなくて、私は、挑戦プロジェクトというのは非常にいいという認識で今申し上げました。

数を増やすというよりも、そういう全国レベルとの格差の認識をこの中に入れ込むということ。それを解消するための挑戦プロジェクトなんだ。あるいは、このままいったら成長率が全国を下回るままになってしまう。それを引き上げるためのプロジェクトなんだという認識が非常に重要ではないかと思います。

(太田委員)

挑戦プロジェクトは、大変いいと思います。

県、それから地方自治体、企業、ありとあらゆる組織、県民200万人がひとつの目標で一緒になって用意ドンで同時にスタートするイメージをしたとき、私は数の面だけで言うと、もう多すぎると思います。みんなで同時にはこんなにはできっこないです。同時でなくてもいいと言うなら、それはそれでいいんですけども。

そういう面では増やさない形で実行できる具体的なテーマ。その中で、ひとつ健康長寿ナンバーワンということ、やはりこういうたぐいのもの、目標値イコール行動、プロジェクト名というような形で出せるテーマが、この中にはもちろんありますが、プロジェクトというのですから、やはり結果を出した、出さないというのが5年後に県民からはっきりと評価されるようなテーマであればいい。具体的に、そういうテーマを望みます。

(松岡委員)

今日から参加させていただきますので、少し的外れなことを申し上げるかもしれませんが、今出ています格差ということですが、今非常に話題になっているところで、そういう意味でとても大事なキーワードだと私も思います。

ところが、挑戦プロジェクトのテーマとしてここに掲げられているいくつかの丸で囲まれているのを見ますと、これはかなり具体的な内容になっていまして、格差とまた別次元の切り口の話なので、ここに入れ込むのはちょっと難しいかなと思います。もし格差というのを入れるのであれば、また違うもっと立体的な形にして入れていくということになるかと思いますが。

そして、一つ一つのこの丸を拝見いたしますと、例えば「一人当たり県民所得全国レベルへの挑戦」とか、いろいろ挑戦項目が書いてあります。この中で「出産・子育て安心県への挑戦」とありますが、それでは今は、出産・子育て安心県ではないのかなというようなことも出てまいります。この部分の書きようですけれども、ナンバーワンをめざすとか、

長寿のほうはナンバーワンと書かれておりますけれども、そのへんはもう少し工夫されたほうがいい。そういう表現のところで、長野県はなるべく格差を是正して、全国的なものとのくらいの位置を、めざしていくのかというようなことで、入れ込めればそれでもよろしいかなと、今ちょっと感じました。

それから、今、健康長寿ナンバーワンの話が出ましたので、16ページにあるご説明でも、全国平均を上回る水準で高齢化して、さらに平均寿命は全国1位、男女合わせれば長寿日本一だと思います。また、どこに行っても長野県は一人当たりの老人医療費が一番低いんですよと言われます。これは、やはり長野県の最も全国に誇れる点ではないかと私は思うんですね。

これから、この医療と福祉がかなり密接に結びついてまいりますので、その都道府県の力量によって、こういう老後の幸福度というのは大きな差がついてくるのではないかと考えています。長野県では、非常に優秀な医療機関、医療関係者が早くから地域の予防に取り組んできたからこそ、こういうものが今達成できていると私は思っております。そういう意味ではナンバーワンへの挑戦とありますが、ほかの場所に行きますと既にナンバーワンと認められている。

ですから、これを持続するというところに挑戦するというイメージならいいと思いますけれども、ちょっとそのへんが、いろいろ強弱があるような感じがいたします。この健康長寿はやはり長野としては、もっと押し出していけるところ、アピールしていけるところではないかと思えます。それを維持していくことは、超高齢社会の我が国が、世界にその見本を示すというときに、日本のサンプル、モデルだけではなくて、世界にそのモデルを示すことができる可能性もあるのではないかと考えていますので、そのへんの表現の仕方も、もう少し考えたほうがいいと思います。

長くなってしまいますけれども、あと気がつきましたことは、16ページの健康長寿のところで、真ん中へんに「取組の例」というのが書かれてございますけれども、予防という用語がないんですね。後ろのほうにいくと少し出てくるんですけども。今、医療制度改革でも介護保険制度改革でも、予防の考え方が、ものすごく重視されるようになってきています。ヨーロッパとか北欧においても、その予防の考え方をもち込んだ例というのはあまりないんですね。私は、日本が世界にモデルを示そうという心意気でやり始めていると思っておりますが、もちろんその予防に取り組むとかえってお金がかかるということがあるかもしれませんが、県民の安心とか信頼を得るためにも、予防に積極的に、それは長野県もやってきたからこそ、今、達成されているということで、さらに国全体が予防に力を入れるようになりましたから、そのリーダーシップを取るような形で、県民の安心とか信頼を得るためにも、非常にそこに力を注いでいくべきではないかと感じておりますので、挑戦という用語はいいとは思いますが、その書き方ですね。

出産・子育てというの、ただ安心だけではなくて、その1番をねらうとか、県民満足度1位とか、ほかの県に誇れるんだとかいった用語を少し入れていただいたほうが、より積極的な形になると思います。以上です。

(小宮山会長)

太田委員、それから松岡委員からは、もう少し数字的なものを入れたらどうかと、その

表現を少し工夫したらどうかというご意見かと思えます。例えば、全国レベルへの挑戦と、これはひとつの数値に係わる。それからナンバーワンとか、地球温暖化先進県とか、多少入っていますが、このあたりもう少し表現を工夫したらどうかというご意見かと思えます。

(若林委員)

今の松岡委員の関連ですが、16ページの健康問題。予防と適度の運動は入れていただいたいほうがいいと思えます。

11ページですけれども、これでもほとんど構わないんですが、中山間地域や農山村における生活・生産基盤などとなっていますが、ここに伝統文化の継承・保持というような言葉を入れていただいて、総合的な地域づくりと結んでいただければ、挑戦プロジェクトの市町村の地域づくりに生きてくるかと思えます。

それから、20ページの地球温暖化の問題ですが、確かに論議をいただいたように、地球温暖化を防止するという視点が一方でありながら、現実には温暖化は進んでいるわけですから、それに対する対応も考えていかなければいけない。20ページの①の下段にある「県の事務事業における温暖化対策」の事務事業という意味が少し分からない。私はその上の「企業が行う温暖化対策の支援」や、温暖化対応ですね、温暖化そのものを認めてそれに対する対応をしていくという先進性、その部分を入れ込んでいただいたいほうがいいのではないかと思えます。これは要望です。入っても入らなくても結構です。以上です。

(小宮山会長)

はい、ありがとうございます。

北原委員、個々のところにそういう精神を盛り込むということにしたいと思えます。

それから、この表現は、もう少し挑戦的にしたいということと、数値目標的なものをもう少し加えたらどうかということ。

それから、松岡委員からございました、16ページの「健康長寿No. 1への挑戦」に予防、それと今、若林委員から出ました、運動を兼ねた予防は加えます。メタボリックシンドローム対策に、かなりこの予防的なものは入っています。数値目標まで入ってしまっていて、これこそ予防なわけですが、これだと少しはっきりしてないので、このへんは少し工夫をしたいと思います。

どうぞ、遠慮なくいろいろ気がついたところをいただきたいと思います。

はい、どうぞ。松下委員。

(松下委員)

バスの都合で遅れましてすいませんでした。

15ページの今話題になっている挑戦プロジェクトのところですが、もうマスがいっぱいだということなんですけれども、無理を承知でちょっと意見だけ述べさせていただきます。

ここに林業立県あるいは林業振興日本一をめざすとかいうような項目が一つ増やせると、長野県らしさとともに、これは長野県に限らず今全国的に、山をどう維持していったらいいかというあたりの先進的な取組になるのかなと思えます。「地球温暖化対策先進県への挑戦」という中の、17ページが一番下のところの「豊かな森林資源の活用」というところで、

おそらく盛り込まれていると思うんですけども、今の長野県の森林は、いろいろ多岐にわたって長野県の最も誇るべき財産であるような気がします。その財産である森林が、見た目だけでなく、それにかかわる産業面がまだまだでこ入れをしていかなければいけないということもありまして、そんな項目が増やせたらなと思っています。

実は先日、信大農学部で島崎洋路先生が信毎賞を受賞された記念シンポジウムで、「近頃、思うこと」というテーマで、先生はこの問題について非常に心配をされて講演をなされました。長野県という立地を踏まえた上でこの項目をひとつ、今七つですから、八つなると未広がりです。是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

(小宮山会長)

これは、オリジナルには地球温暖化対策と、それから「施策の柱」の最初の「自然と人が共生する豊かな環境づくり」の「主要施策」に「未来へつなぐ森林づくり」をうたっています。挑戦は挑戦だということになるんですけど、事務局、ここはどう整理したのでしょうか。

(岩崎課長)

ご指摘はごもっともで、森林の大切さとか、森林に対する考え方というのは、一番は「めざす姿」のところでも特に記述しております。長野県として森林を大事にしていくということは「めざす姿」の中に入っています。

施策でも、環境の中の主要施策の2番目で、「未来へつなぐ森林づくり」ということで、考え方としては森林づくりという点は非常に重要視をした形になっています。業としての林業というのは、また産業分野でも取り扱わなければいけない問題ですので、そういった形で重要視をしていますので、プロジェクトとしてという話は、また考えさせていただければと思います。森林づくりについては、そのような形で計画では重要なポイントとして取り扱うということで、ご理解いただければと思います。

(松下委員)

ありがとうございます。是非、遠藤委員さん、池田委員さんあたりからフォローして応援演説をしていただければと思います。

(太田委員)

ひとつ、事務局に質問ですが、よろしいですか。

施策の体系に44項目が出ています。かなり具体的な項目が出ていると思うんですが、これと、この七つのプロジェクトとが分かりにくい。この施策の重要テーマ七つを、プロジェクトとして全県的にやるというように私は考えたいんですが、それとはまた違うんですか。

要は、この施策というのにプロジェクトにしたいような具体的なテーマがかなり入っているわけです。このへんが分かりづらいので、説明をお願いしたいんです。

(岩崎課長)

参考としてお配りしました「長野県中期総合計画（仮称）構成」という資料をご覧いただきたいと思います。主要施策に記載されている具体的な項目については長野県としての必要な施策・事業、そういったものがイメージできるところまでできるだけ記載をしたいということで、太田委員さんがおっしゃるとおり、かなり具体的なところまで書いてあります。ここに書いてあることは、長野県が総合的で、着実にという意味で、全体が施策体系の中に入っています。では、その中のプロジェクトは、どういう位置付けかということですが、その中にある施策・事業を結集しながら、ここには絶対に力を入れていく、是非力を入れていきたいという項目を七つに絞ったということです。県民所得を全国レベルへということになれば、それは製造業もそうですし、観光も、それから農林業も、今よりもよく、今よりも多くという取組を是非していきたい、それを応援していきたいというような考え方で七つを選んであります。

（太田委員）

この施策というのは、県だけでやるわけではないですよ。できないですよ。

（岩崎課長）

特にプロジェクトに挙げた項目については、こういう項目について力を入れていってはどうですかということで、いろいろな活動主体の皆さんに協力をしていただきたいという趣旨になります。

（太田委員）

はい、分かりました。ありがとうございました。

（伊藤委員）

太田委員さんのお話と重ねて質問させていただきたいんですが、34ページに達成目標の設定というお話で、先ほど達成目標は19ページの主要施策44項目の一つ一つについて目標を設定するというお話をしていただいたかと思います。挑戦プロジェクトという、特に重点な主体が、一つ一つの項目について達成目標を出していくというのはとても重要です。同時に、この県だけではなく全体で取り組んでいく目標であるという達成目標の考え方①というのは、挑戦プロジェクトそれぞれについてこういう目標を大きく掲げ、44項目については、こういう目標を出しますという形の目標設定という考えでもあるのでしょうか。

（岩崎課長）

ご指摘の点は、挑戦プロジェクトの具体的な達成状況を示すために目標をどうしていくかということだと思えますけれども、目標については例えば「一人当たり県民所得全国レベル」というところでいきますと、県民所得そのもの、あるいは順位、そのほかにも例えば観光統計を使った観光利用者数だとか消費額、そういった項目が考えられると思います。

今、申し上げたような項目は、主要施策の達成目標、そういったところと、レベルが違うのかと言われるとなかなか設定が難しいと思いますけれども、そういったものと重なる

目標が出てくると考えています。

(伊藤委員)

そうしますと、挑戦プロジェクトの7項目、今、ほかの委員さんのご意見もいろいろあるので、どう落ち着くかというのはあると思うんですが、この「全国レベルへの挑戦」については、いくつかの目標が考えられ、その目標の組み合わせによって示していこうということなのかと、今伺いして思いました。それもひとつの考えであると思うんですが、ある意味、挑戦プロジェクトがこれで、さらにその目標がこれとこれですという、選択と集中といわれる計画でありながら、県民一人ひとりが、「じゃあ、私は何をすればいいの」というところがあいまいになってしまうのではないかなと思います。「ある意味これはやろうよ」というような、具体的な目標というのがポンとこの中で絞り込まれて出されてもいいのではないかなと感じます。

(近藤委員)

私も、いろいろな所へ出て、懇談会の中にもあるように、この達成目標のあり方というのが、非常に重要だと思っているんです。ここにも県民と共有するとありますが、ここをどうしていくのか。ただ羅列をして、各施策だけに目標ということではなくて、先ほど平尾さんからも話があった、全国的にいま長野県がどういう位置にあって、本当にこれはこうしていかなければいけないという目標を、いわゆる納得性や共有性というものをどうやってつくるかということが、中期総合計画をこれから進めていく上でも重要だと思っています。中身そのものはトータルとして受け止められるのですが、この達成目標のやり方と、それから施策すべてに羅列型でいいのかどうかを含めて、少しポイントを絞ったものがあるのか、少しここで議論した上で、これだけは長野県として5年間どうしても進めたいんだという部分を、少しピックアップしたほうがいいのかではないか。ただ、この目標のあり方というのは、ここにもありますように非常に難しさがありますが、是非、具体的に進めていく上で共感できるようなものにしていきたいと思っています。

(池田専門委員)

この参考資料の構成図がやはり少し分かりづらいですね。「基本目標」があって、「めざす姿」があって、「施策の柱」があって、「挑戦プロジェクト」があって、その下になぜかまた「基本的視点」があるというのは、分かりづらい。

「基本的視点」は「基本目標」の下にあって、「挑戦プロジェクト」を推進していく中身が施策であって、その施策の中には具体的な数値目標も掲げられて、ここに取り上げた四十幾つの施策を着実にやっていると、それがすなわち挑戦であり、目標達成しながら上の基本目標も最終的には達成されていくというふうになっていないとまずいのではないかなと思います。構成がすっきり分かりやすくなっていないと、それぞれの関係が複雑になってしまうという構成上の問題がひとつあります。

もうひとつ、私の分野から言わせていただくと、環境分野について非常にウエイトが大きいというのは大変いいんですけども、その割には21ページの「主要施策と展開方向」という中の記載が非常にステレオタイプであるものがある。例えば⑤の「資源循環型の社会の

形成」は、あまりにも全国に共通する一般的な内容でありすぎる。先日の地震のときに、柏崎のクリーンセンターの煙突が崩れたということがありましたけれども、今までの日本のゴミ処理のあり方というのが、施設に依存してきた、ハードに依存してきたことによって、原発だけでなく、ああいう施設が災害に非常にもろいということが露呈しているわけです。そういうところをこの山間地であり、断層もたくさん抱える長野県にあっては、ひとつずつそういうハードに依存したゴミ処理をなくしていく、少しずつそういうものを減らしていくというのは県民にとって大きなビジョンになる、取り組んでいくエネルギーがわくものだと思います。

今ある焼却炉が古くなったら、またどこかに造らなければというのは、非常に暗いビジョンであるので、そういう既存施設を見直すための何かを打ち出さないといけない。特に⑤については非常に不満足です。そのへんも、挑戦するならするらしくはっきりと書いていってもらいたいと思います。

(花岡委員)

数点お願いしたいと思います。

まず、事務的な話ですが、20ページの「施策の展開」ということで、膨大な資料がここから始まって、各施策ごとに出てくるんですけども、先ほど説明がありました、例えば①の中で、前段はねらい、後段は施策、「このため」というのは施策だという意味ですから、そう書いたほうが分かりやすい。後段は全部「このため」と表示してありますが、むしろ分かりやすくするためには、前段のところは「ねらい」として項目を書く。それから後段のほうは、「このため」という表示をやめて、「施策」なり「施策の方法」という項目立てにして、具体的なものを書くほうが分かりやすくいいというのがひとつです。

それから、二つ目。34ページの「達成目標の設定」ということで、項を起こしていただいて非常に結構だと思いますが、一番最後の「(2) 達成目標の設定の考え方」は、いろいろな達成目標があるということを書いているんだと思うんですが、「また」のところは何を表現したのか分かりにくい。むしろ、このまたの部分に変えて、達成目標につきましては計画の中間年における見直しというような、いわゆる達成目標は、その経済情勢・社会情勢によって変化していくということが現実にあるわけで、5年間の目標を立ててそのまま放置していくということではなくて、少なくともその中間年において、全部見直す必要はないと思うんですが、必要な部分は見直していくと生きた計画になると私は思います。そのことは1ページの「計画の趣旨」の「計画の性格」の後段に「なお、計画の推進に当たっては、その実施内容や方法、達成目標等については、社会経済情勢の変化に常に弾力的に対応していく必要がある。」と書いてある。この34ページの達成目標の設定の(2)の後段に、計画を常に生きたものにしていくためには、中間年における達成目標数値の見直し等もやっていかなければならないというようなことが表示されていて、現実にはそういう運用がなされるほうがいいのではないかと。それが二つ目です。

それから三つ目。先ほど来、近藤さん、それから池田さんからも話がありましたが、七つのプロジェクトと、それからほかの一般施策の達成目標、プロジェクトの特質とか、プロジェクトの部分がほかの一般的な施策との中で整理がちょっと分かりにくいという発言もありました。特にその達成目標は、各行政項目の中には細かに出てくるとは思うんですが、

是非プロジェクトの項目については重複して出てくるのがいっぱいあると思うんですが、重複してもいいので、それぞれの挑戦プロジェクトの中に、達成目標を整理をしていくと非常に分かりやすい提示になると思います。以上です。

(遠藤専門委員)

私、この会の冒頭でお願いしましたが、長野県のコア・コンピタンス (Core Competence、企業等が持つ独自の強みや、他がマネできない技術) は何なのかというところで、我々が日本中の中で非常に自慢できるのは、教育、自然、家族、産業・ハイテク、ツーリズム・旅ですね、それとヘルス、この六つだと思います。だいたい入っていますが、ひとつ、家族というのが落ちています。やはり都会と違うところは、例えば三世代同居しているとか、そういう中でおじいちゃんもおばあちゃんもお父さんも私も、みんな働いている。そういう人たちに非常にすばらしい雇用環境を与えているということが落ちている。そして、それをまた長野の教育という視点から見ても、とてもいい継承性といえますか、そういうものが保たれている。しかし、どこを見ても、家族というところがない。

最近よく言われていますが、イエコノミーといいますが、おじいちゃんもお母さんもお父さんも、みんな働いていると、先ほどの平尾委員のご指摘ではありませんが、一人ひとりの所得は少し格差がありますが、家全体の経済で見れば、意外と高額所得になります。ですから、そういういい点もあるので、家族について、どこかへちょっと忘れてきたような気がするので、どこへ入れたらいいのか、今いろいろ考えていますが、是非入れ込んでいただきたい。

それから、もうひとつ、このまま放っておくと経済格差がどんどん広がっていくという先ほどの平尾委員のご発言ですが、長野は65歳以上のお年寄りとお婦人の就業率は日本一高い、こういういわゆる弱者に支えられた産業なんです。ですから、どうやってこの格差を縮めていくかというのは、やはり産業のハイテク化、もっと創造的な産業をいかに戦略的に付けるかということです。

実は最近、データはありませんが、長野県の付加価値生産性はどんどん落ちていきます。一人当たりの社員が生み出す価値は、長野は一時結構いいところまでいったんですけど、今は全国の7割を切っている。つまり、働けど働けどなかなか収入に結びつかないという形態もどんどん出ている。それをどうやったら払拭できるかということ、やはり産業のハイテク化だと思います。

そして、先ほどの松下委員の発言を少しサポートするお話になりますが、日本一すばらしい山や自然を持っている。そしてすばらしい、おいしいお水がある。こういうものを大切にするという心から、いい社会が生まれ、そしていい教育ができて、そしてこのすばらしい長野、信州という社会がつくられていく。その社会の価値観もだいぶ変わっていくと思うんです。

最近、東京へ行っても、長野は田舎というのはハンディキャップとして感じなくなっていて、私たちのすばらしいこの信州、そこに住む者として誇りに思うような、そういう時代になっている。そういうものを、もう少しどこかに力強くうたってほしい。心の問題かもしれませんが、是非、そういう一環として松下委員ではありませんが、森を守りはぐくんでいくというのは、だれかに言われてやることではなくて、県民のひとつの心の底流と

して自然にやれて、そしてこういった社会から非常に活力があって、経済もどんどん発展していく。そういう21世紀型の地域社会ができていく、そんな気がします。ですからそんなところをどっかに盛り込んでいただければと思います。以上でございます。

(平尾委員)

先ほどの追加みたいな話ですが、私はこの挑戦プロジェクトという項目をつくっていたのは大変いいなと思っております。このままいったらどうなるかという前提で、それを引き上げるためにみんなで挑戦していこうというスタンスで、是非これをうまく生かしていきたいなと思っております。

この前お話したかどうか忘れてしまいましたが、今年の年初のあいさつでトヨタ自動車の社長が、取引先の社長を全部呼んで、こういう車をつくりたいんで協力してほしいという話をした。乗れば乗るほど健康になる車、乗れば乗るほど地球環境にいい車、こういう車をつくりたいんでみんな協力してほしいと、取引先の社長にトヨタの渡辺社長が話したそうです。

私は、活力が増せば増すほど健康になる県、活力が増せば増すほど地球環境にいい県、こういうプロジェクトをみんなでつくり出そうじゃないかという、そういう挑戦プロジェクトのメッセージというのが、すごく大事だと思うんです。こういう施策を展開するのが、施策の体系図であって、プロジェクトと体系図というのは、必ずしもぴったり一致しなくても、これがプロジェクトを支えるんだという全体の絵がうまく描ければ、非常に分かりやすいと思います。

ただ、プロジェクトのイメージが、少し細切れになり過ぎているものだから、この施策体系の柱との関係が非常に分かりにくい。もっと、こういうプロジェクトでみんな協力してくれというメッセージをこの中に盛り込んだほうが、私は分かりやすいのかなと思いつつながら聞いていたんですけど、そんなところはどうかでしょうか。

(小宮山会長)

池田委員さんからもありましたし、このへんの構成、それから表現の仕方については少し検討しましょう。

(樋口専門委員)

答申案は全体として、非常にうまくできていると思いますし、挑戦プロジェクトのところも分かりやすい形になったと思うんですが、ただ逆に挑戦プロジェクトというタイトルを付けてしまったので、かえって分かりにくくなった部分がひとつあるのかなと思います。

私は特に人材の育成、養成というのは非常に大事なことだと思います。確かに挑戦プロジェクトの中には「次代を担う多彩な人材育成県への挑戦」ということで、タイトルとしていいタイトルが入っていると思いますが、人材育成の考え方が、この中を見ると子どもたちの多様な個性や能力を最大限に引き出すという問題と、産業を担う人材の育成というものをひとつにまとめておられる。これは、技術的にいろいろ制約があるというのは分かりませんが、その結果として、例えて言えば少し富国強兵型の人材育成になっているんじゃないかと思っております。

つまり、目的のため、活力ある地域をつくるために、子どもたちをそちらに向けて育てるというふうに読めてしまう。例えば、「未来を担うたくましい子どもたちの育成」と書いてありますけども、個性豊かな子どもたちの育成とか、もう少し子どもたちに自由な環境を用意する必要があるのかなと感じます。

それから、若者はどうなっているのか。人材を育成するのであれば、いわゆる小中学校、高校ぐらいまでの子どもたちと、もう少し先の年齢層というのもある。そこを考えると、言葉はこなれていませんが、次代を担う多彩な人材育成というところは、正確にいうと次代を担う多彩な人材を生み出す環境整備への挑戦ということではないかと思います。

そういう観点からいうと、例えば国際的な視野に立った子どもたちを育てることも重要だと思います。また、国際的な人材を育てた結果として長野から巣立っていく人も多いと思います。現在の長野を担う人々が若い人にとって魅力ある地域をつくって、そういう前途有為な子どもたち、若者を長野に定着するように、その環境、受け皿をしっかりとっていく。子どもあるいは若者に負担を負わせるのではなくて、環境のほうでしっかりしたインフラ整備をしていく。そういう意味で、高等教育とか、産業のところまでもつなげて読むならば、高度な産業技術の専門家を育成するという内容も入ってくると思います。前の「一人当たり県民所得全国レベルの挑戦」のところでは、産学連携に多少言及されていますが、この部分でも産学連携による高度な専門家の育成やそのため環境整備の視点はとりわけ重要だと思います。

これは分類学の問題なので、少し微妙ですけれども、子どもたちから産業人材まで一貫して、ここで書いた結果として、焦点が見えにくくなってしまっているのかなという印象を受けました。もちろん答申案をまとめる以上、ある程度の制約があるのは仕方ないという点は分かるんですが。いずれにしても「たくましい子どもたち」というのは、あまりいい表現ではないのかなという気がいたします。

(有吉委員)

先ほど、家族という問題が出ましたが、確かに家族というのは大切だと思うんですけど、家族観というのはかなり主観、それぞれの家族の持ち方ということがありますので、あまり県が主体になってこうすべきだ、こういうのが理想だというのは、私は好ましくないとします。それよりも、先ほどおっしゃられたように子どもたち、次世代を担う子どもたちが育つ環境づくりをどうしていくかが大切で、あとは子どもたちの選択です。どういう選択をしていくか、いろいろな選択ができる環境づくりということが大切で、具体例を挙げれば、例えば先ほども高校とその後の企業、産業との一体化というのがありました。高校でも中学校の学力がない生徒たちは、中学校の上の積み重ねとなる高校の授業では何を言っているか全然分からない。だから学校へ行っても退屈しのぎ、友達としゃべったりするのが楽しくて行っている程度となっています。ですから、そういう子たちには専門性を与えて、その後、例えば工業高校ならば、そのまま企業に行ったときに役立つような形、学校へ行っても生き生きと授業を受けられるような形をつくっていく。

挑戦プロジェクトを見ると、本当に全部どういうふう to 実現するのかなという感じがします。5年後を見たときに、どういうふう to 実現するのか、あまり見えてこないというところがありますので、やはりこういう具体的なものも、「取組の例」とかありますけれども、

その中にできるだけ具体化できるものは具体化して盛り込んでいったほうが県民も分かりやすいのではないかなと思います。

(小宮山会長)

そうですね。ありがとうございます。

今日は、経済の動向とかも出ていましたが、松永委員、何かコメントございましたら。

(松永専門委員)

それでは、格差の話に一言付け加えさせていただきますけれど、格差の是正を図る手段には大きく二つあると思っています。それは、格差が広がっている中で弱者を保護する、あるいは強者をたたいて格差を縮める方法と、もうひとつは経済全体の推移を底上げして、みんなが豊かになっていく中で格差を是正していくという二つの大きな方法があると思っています。

前者のほうについては、例えば今、議論されている最低賃金の引き上げといった手段もありますし、いろいろなやり方があると思いますが、長野県、県レベルとか市町村レベルでやるということは、ある程度限界があるという気がしております。やりすぎると過保護になり長野県の活力や創生力が失われてしまうという可能性がありますので、やはり県とか市町村レベルで考えると、長野県の産業をいかに振興を図ってですね、県民所得の全国レベルへの引き上げを図り、そうした中で経済全体の水位を上げて、それで格差の是正を図っていく。どちらかと言えばそういうことを重点的にやったほうがいいという気がしております。

(滝澤委員)

基本的に私も、非常にいいものができてきているなと思っています。先ほどから議論が出ていますので繰り返しになってしまうかもしれませんが、挑戦プロジェクトについても非常に良かったと思います。この挑戦プロジェクトのねらいは、ひとつは横断的な施策のもの、それから長野県として特にアピール、独自性を出したいものだと思いますので、そういう意味でいいものが出ているかと思っています。

ただ、5年間で実現できなければいけないわけです。例えば県民所得全国レベルというものを考えてみれば、5年間で実現できるかと言ったら、先ほどの資料でいくと格差がどんどん広がって、差が逆に広まっている状況の中でできるかという問題があって、すごく大変な訳です。ただ、こういう全国レベルというような形で具体的な目標をきちっと設定してやっていくということは非常にいいことだと思います。

そういう意味でいくと、例えば先ほども少し出ていましたけども、いくつかのテーマについてはその目標がなかなか設定しづらい。例えば、「市町村が主役の輝く地域づくりへの挑戦」という言葉だと、一体何が目標なのか非常にまだ漠然としている感があるという気がします。

先ほどの人材育成についても、主要施策との兼ね合いで、なぜここで挑戦、何に挑戦するのかと言うと、今ひとつはっきりしないと感じます。先ほどから議論が出ていることですが、そのへんもまた、是非豊かにしていただければなと思います。

(有吉委員)

ひとつだけ、ちょっと言葉で抵抗があるところがあるのですが。

17ページの「取組の例」ですが、これがそのまま出なければいいんですけども、「晩婚化・非婚化への対応」ということがあります。何で対応しなければいけないのか。やはり個人の問題になってくるので、結婚しないということも、遅くに結婚することも、個人の自由なわけで、こういうことに県が対応していくというのは、私は余計なおせっかいはないかなという気がします。こういうのは女性、まあ男性もそうだと思うんですけど、すごく抵抗感のある表現かなと思います。ちょっと、何を意図しているのか、もしからしたら、いいことを意図しているのかもしれませんが、残念ながらそれが伝わってこない。少子化で高齢化対策だと、少子化でなくて、もっと子どもがたくさんいたほうがいいのかというふうな、プラスの思考で聞こえますが、これは、晩婚・非婚はよくないというふうに思いますので、省いていただいたほうがいいのかと思います。

(岩崎課長)

今のお話ですけれども、少子化についての対策を検討いただいている別の懇談会があります。私どもで行ったアンケートの中に、結婚はしたいんだけどいろいろな制約要因があるという答えが非常に多くありました。この表現が適切かどうかというお話であればあれですけども、そういった対策も必要という議論があるということが前提にあるということで、その点だけ申し上げたいと思います。以上です。

(有吉委員)

結局、結婚はしたいけれども、男性でも結婚すると今まで得た収入が家族のほうにいくという、そういう中で、維持していけるのかという不安とか、あとは家庭をもって子どもを産んで、その後育児とかいろいろちゃんとやっていけるのかという、そういうことで結婚を躊躇したり、晩婚化ということになるのであれば、別にこうやらなくとも、子育て環境とか、家庭と仕事の両立という体制で盛り込まれていることなので特に必要ないと思います。すいません、しつこくて。

(松下委員)

目次の立て方が少し分からないのですが、第6に「各地域別の特性と発展方向」というのがありまして、それから第7に「計画推進のための県の取組」というのが出てきます。第6のところまでひょっとしてこれで終わりなのかなと思っていたら、最後に県の取組が出てくる。第7のページ数は2ページだけで、しかも何か忘れられそうなところなので、これは、むしろ逆転したほうがいいのかと感じました。

それから、もうひとつ、これはちょっと違う視点で、47ページの第7の4のところに、「県有施設の適切な維持管理」という項目を入れていただいて、私は非常に満足をしているんですけど、この中身は別としても、こういうことを率先していただけるというのは大変ありがたいと思いました。

この県有施設の適切な維持管理というのは、実は県だけで済む問題ではなくて、各市町

村にも率先していただきたい内容です。20ページの「施策の展開」の一番最初にある「自然と人が共生する豊かな環境づくり」の後段のところに、環境負荷の少ない循環型社会の実現、廃棄物の問題が取り上げてありますが、このあたりに、本当でしたらこの施策が入ってこなければいけないのではないかと。あるいは、かつてはスクラップアンドビルドをずっと繰り返してきたということに対する、何か新しい県の取組が全市町村にまで浸透していくような施策が盛り込まれたら、私はすばらしい施策展開になっていくのではないかと思いますので、ご検討いただけたらと思います。

(小宮山会長)

最後に県の取組を持ってきたということは、どういうことでしたでしょうか。

(岩崎課長)

第5、第6と県の施策としてつながっていくものですから、その流れで地域編のほうが前に出ているということです。第7としましたのは、これはそこから上の計画として書かれた全体を進めていくための県の姿勢ということで、全体に係わるものですから、最後にしているということです。ですから、間に挟むとかえって分かりづらくなるのかなと思います。もし、出すとすれば一番前のほうへ持っていかということだと思いますが、あまり前に出しすぎると、何の計画かよく分からなくなりますので、例えば計画のパンフレットのような形でつくる時は、そういったことは工夫していかないといけないかなと思っています。

(遠藤専門委員)

ひとつ、怒られるかもしれませんが、この挑戦プロジェクト、「健康長寿NO. 1への挑戦」、ナンバーワンというのは日本でナンバーワンということですね。ですが、本文を見ますと25ページには「世界に誇る健康長寿県の確立」と書いてある。日本一ということは世界一ですよ。ですからこの際思い切って、グローバル化と言っているんですから、世界一への挑戦としてはどうでしょうか。

私たちが、子どものころ桃太郎の話で、よく日本一という旗揚げているお猿さんがいましたけど、今はグローバル化の時代、日本一じゃだめだ、世界一をめざしてほしいということで、ちょっとオーバーかもしれませんが、そんな意気込みが感じられたいいのではないかなと思います。これは皆さんのご意見もあるかもしれませんが。

(小宮山会長)

これは確かに維持なんですね。今、1位ですから。

時間がなくなりました。本日一番ご意見をいただいたところは主に挑戦プロジェクトだったかと思います。これが、多すぎるのではないかと意見もございました。それから、もう少し加えたほうが良いという意見もございました。ただこれは、何回か出ましたように、「施策の柱」を横断して、これに重点的に挑戦しようではないかという趣旨で、ここに挙げたものです。

ラッキーセブンにこだわるわけではありませんが、一応ここでは七つ置いておいて、そ

してどこに挑戦する、何に挑戦するのかということ、もう少し明確にしようではないかということがございましたの、そのあたりを少し検討させていただきたいと思います。

あとは、今日いただきましたご意見を参考にもう少し詰めたいと思います。

本当に今日はありがとうございました。

(北原専門委員)

ひとつ言い忘れたんですけれども、よろしいでしょうか。

全体的に私もすごく、挑戦プロジェクトの施策もいいと思うんですけど、施策のところ、少し足りないかなという感じのところがあります。それは、21ページの「自然と人が共生する豊かな環境づくり」ですけれども、一番最後のところに、「人と野生鳥獣とが適正に共存ができる環境づくりを進める」という一文が書かれています。プロジェクトも含めて全部の施策の中で、この一文だけが現在問題になっている大型獣類の問題、農山村のみならず、長野県が誇る観光資源のひとつでもある高山帯だとか、そういうところの自然破壊にもなっていますし、それから森林破壊、皮はぎとかだんだんひどくなっています。希少植物もなくなっています。それから、森林の持っている水源かん養機能だとか、土砂流出崩壊防止機能というのも低下しつつあると思います。

ということで、これを一項立てる。農林業のみならずという感じでいかがでしょうか。これはちょっと強調すべき事柄だと思うんです。

(池田専門委員)

賛成です。

(小宮山会長)

それでは、その方向で検討させてください。

時間がそろそろまいりましたので、本日ご議論いただくのはこの程度にいたしたいと思えます。

それでは、いろいろな、貴重なご意見をいただきましたが、私のところで一応整理いたしまして、公表用の答申素案として固めて、パブリックコメントを求めていきたいと思えますのでご了承いただきたいと思えます。なお、私のところでまとめる際に、改めて各委員に個別に今日のご意見等に関して伺いすることがあるかと思えますが、ご協力よろしくお願ひいたします。で、次回までに、パブリックコメントの結果等を反映し、整理した上で答申案を作成いたしたいと思えます。その答申案について、次回ご審議をいただくということになるかと思えます。

それでは、次の議題、その他に移りたいと思えますが、次回の審議会の開催日程等につきまして、事務局から説明をいただけますでしょうか。

(佐藤企画幹)

次回の開催日程についてでございますが、3月の審議会で、9月13日木曜日、午前10時から、本日と同じこの県庁3階の特別会議室で開催するよう決定されておりますので、よろしくお願ひいたします。

(小宮山会長)

9月13日ということですので、ご予定のほどよろしく願いいたします。

以上でございますが、この際ですので、何かほかにご意見等ございましたら、若干、若干時間が余っておりますのでいかがでしょうか。

(伊藤委員)

すいません。先ほどの目標設定のことについて少し補足ができればと思うんですが。

松本のある地区で投票率が最低だった地域がありまして、その区長さんがどうにかしたいと思って、うちの地区の投票率はこうですよという数字を、その地区の方々全員にお知らせをして、自分たちの地区の投票率をアップしましょうということ呼びかけましたら、次の選挙で最下位から全市の中で真ん中くらいにまで上がりました。その結果を、また地区の人たちに伝えていって、自分たちの動きが具体的な変化として表れたというフィードバックも確実に行ったことによって、その地区全体が投票行動ですとか、その地区のいろいろな地域活動への参加が活性化してきたという事例がありました。

先ほど、各委員から全国的なレベルでのきちっとした目標を視野に入れていくというマクロの視点と同時に、今回の計画の中で、自分の日々の動きが、直接、例えば環境とかの目標のここに結びつくという、シンプルで明確な数字が提示されるということは、日々の具体的な活動にとっても結びつきやすいと思うんですね。

そういう意味で目標設定を大きな全国レベルのものを視野に入れたものと同時に、日々の生活の中での私たちの日常がその目標達成に結びつくんだというような、そういう目標も是非考えていただければと思います。

(小宮山会長)

ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、本日も本当にご熱心なご審議をいただきましてありがとうございました。これで、今日の審議会を終わります。

(佐藤企画幹)

以上をもちまして、長野県総合計画審議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。